

■第1回新下関市立病院基本構想検討委員会での意見内容及び基本構想（素案）への対応

番号	発言者	ページ、項目番号など	意見内容	基本構想（素案）への対応
1	森委員	全般	示された基本構想（素案）には病床数や新病院が持つ診療機能について記載がない。病床数や新病院が持つ診療機能が決まる時期、スケジュールを明確にすべき。	本基本構想において、病床規模については第2次中間報告の内容を踏襲し、他の2病院を上回らない程度の規模とすること、診療科・診療体制については統合する2病院の急性期機能の統合を基本とすること、及び下関医療圏としての急性期医療を3病院体制で確実に担うことができるよう、4病院間で必要な機能再編について協議を進めていくことを記載しています。 具体的な病床規模、診療科・診療体制を決定するスケジュールに関しては、本基本構想1ページの図表1で記載しているとおり、今後策定する基本計画により方針を示すこととしており、引き続き必要な協議を進めてまいります。
2	森委員 吉野委員	全般	新型コロナウイルス感染症の影響で患者数が減っている。コロナ前のデータを用いた推計は現状を捉えられておらず、それを基に検討した本基本構想は見直すべき。	直近の医療需要の把握及びそれに基づく将来推計については、国の重点支援区域に対する技術的支援を活用して、令和6年度中に、令和5年度のDPCデータを用いた分析を行いたいと考えています。 本基本構想は、具体的な病床規模を決定するものではなく、新病院が担うべき役割や機能等に関する本市の方針を明らかにするために策定するものですので、ご理解をお願いします。
3	内山委員	全般	全国的に人口が減少しているが、下関では全国に先んじて人口減少が始まっており、それを加味した精緻な将来人口推計が必要である。医療保険制度や介護保険制度にも配慮し、市民に負担を増やさない統合であることを要望する。	将来人口推計は、直近のデータを活用しできるだけ精緻に行います。市民負担を増やすことは考えていません。

番号	発言者	ページ、項目番号など	意見内容	基本構想（素案）への対応
4	河村委員	P2 2 基本構想策定の経緯 P4 (2) 急性期病院による医療提供体制の課題 P7 ウ 医師に係る政策動向について	山口大学から派遣される医師の高齢化が進んでおり、医師の派遣を山口大学のみ reliant することに不安を感じている。医師確保の方策はどのように考えているのか。	医師確保は、本市としても主要な課題と捉えています。本基本構想に記載しているとおりの、4病院の再編・統合に伴い、重複する診療科を整理することにより、症例数と安定した医師の確保を実現したいと考えています。
5	河村委員	P16 4 新病院が担うべき医療機能について (1) 5 疾病 6 事業への考え方 イ 6 事業（救急・災害・へき地・周産期・小児・感染症）の考え方について	へき地医療は大切であるので、積極的に取り組んでほしい。	新病院においても、現在、下関市立市民病院が有しているへき地医療拠点病院としての機能を引き続き有する予定であり、本基本構想にも機能を有する旨を記載しています。
6	尼田委員	P16 4 新病院が担うべき医療機能について (1) 5 疾病 6 事業への考え方 ウ 健診事業について	下関医療圏においては下関市立市民病院及び下関医療センターで数多くの市民が健診を受診している。統合によって健診難民が起きないように配慮してほしい。	健診の重要性は本市としても認識しているところであり、新病院においても積極的に健診事業を行っていく旨を追記しました。
7	中川委員	その他	新病院の運営開始に合わせ、外来患者のための院外薬局が近隣にできると見込まれる。例えば地域災害拠点病院の機能を有する新病院の近隣薬局であれば災害対応可能な薬局が望ましいのではなど、薬剤師会として助言できる部分があるやに思料する。下関市と協議の機会を持ちたい。	改めて協議の場を設けたいと考えています。